
プラネットゲーム

カトラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プラネットゲーム

【Nコード】

N8195F

【作者名】

カトラス

【あらすじ】

兄弟は流行のゲームに夢中であった。ゲームは絶妙なバランス設定のシュミレーションゲームである。生物の数を100億にしたらクリアできるってものであった。兄弟は果たしてゲームをクリアすることができるのだろうか……

仲のよさそうな兄弟が、夢中になって液晶画面の映像に釘付けになっていた。

彼らを取りこにさせてる映像は、最近、任地堂というメーカーから発売された超人気ゲームであった。

ゲーム名は“ゴッドハンド”というもので、いわゆるシミュレーションゲームの類である。

ゲームの目的はランダムで振り分けられた惑星を発展させて、その惑星の生物を住みやすい環境になるように調整してやり、最終的には、その惑星の生物の数を100億に繁殖繁殖させるってものであった。でも、ゲームなので、そう易々と特定の生物だけを繁殖できないようになってる。

それは、ゲーム内の設定で生物が増えはじめてきたら、様々な障害が発生して繁殖繁殖の邪魔をするからだ。つい先日兄弟が、これだと決めた生物が繁殖したら、突然の天変地異が起こってしまった、生物が絶滅するという憂き目にあったばかりである。その時、兄弟は迷わずリセットボタンを押して、最初からゲームをやり直したのは言うまでもないことなのだが……

「なあ、兄ちゃん。今度はだいぶ、いい感じで増えてきたなあ。こいつら」

弟はゲーム内に表示されてる生物数を見て興奮した口調でいった。「うん。オプションで知能をあげてやるってことを知ったからな！でも油断は出来ないよ」

前回、酷い目にあっている兄は慎重に弟に言った。

その兄の不吉な予感が的中したかのように、突然に画面が黄色く点滅を شدした。

「やべえ、生物同士が共食いしだしやがった」

兄が共食いと言ったことは、画面の表示では“戦争”と表示され

てる。

「兄ちゃん、リセットしようか？」

弟は弱気なことを兄に進言した。

「もうちょつと、様子を見てみよう。もしかしたら共食いが治まるかもしれないからなあ」

兄の選択は正解だった。ほどなくして、仲たがいでいた生物達は共食いをやめたからだだった。

それでも、画面に表示されてる生物数はかなり減ってしまっていた。

「なんとか、耐えたなあ。でも、なんで？ こいつら共食い止めたんだ兄ちゃん」

弟は不思議そうな顔をして兄に聞いた。

「なんでだろうな？ でも、きつとあいつがやめさせたんじゃないか！」

兄は画面の中で、生物達が拝み倒してる奴を指差して言った。画面の表示には“神降臨”となっていた。

その表示を見て、兄が何かをつかんだようである。

「たぶんなんだけど、ゲームの設定でランダムにいい事と悪い事が選ばれるようになってるんじゃないかな」

兄が言ったことは正解であった。実はこのゲームは人気だけあって絶妙なゲームバランスに仕上がっているのだ。生物が増えだすとほとんどが悪いくことが起こるように設定されているのだが、たまにいい事が起こることもあるように設定されているのである。でないと、ゲームをしてる面白みが薄れてしまうからだ。このゲーム、運もかなり進行に左右する要素になっているのである。

「兄ちゃん、俺便所行ってくるから、時間進めておいてよ」

「おう、早く戻ってこいよ」

兄は、コントローラーを手にとってオプションから短縮モードを選んだ。

このゲームは人気ゲームだけあって、プレイヤーに対しての配慮

が十分なのである。時間を自由にコントロールさせることも、このゲームの売りの一つであった。

弟が用足を済ませて戻ってくると、再び兄はゲームモードを通常に戻した。

兄弟は、即座に生物数の表示を確認してみる。生物数は激減していた。

何があつたのかと、オプションの履歴を確認してみると、“戦争、病、災害”と不幸の三点コンボが立て続けに決まっていたようである。

「どうしよう、兄ちゃん。リセットするか？」

どうも、弟はリセットが好きなようである。すぐに諦めてしまう性格のようだ。

「うーん、迷うところだな」

兄は、腕を組んでどうしようかと思案した。そして、ある考えを導きだしたのであった。

「たぶん、こいつらバカなんだよ……だから、ダメ元で知能を限界までアップさせて見よう。それでダメだったらリセットしたらいいじゃないか」

「うん。兄ちゃん頭いいなあ。どうせリセットするんだったら、今後のために試したほうがいいもんな！」

弟は兄の意見に激しく同意する。それを、聞いた兄は、再びオプションの知能を選ぶと、知能のアイコンバーを最大値に上昇させた。すると、驚いたことに生物達は様々な困難に対して知恵を絞ると、生物達に対する災いを克服していった。兄はみるみるうちに生物が繁殖繁栄していく姿に満足の表情を浮かべた。

「やったね、兄ちゃん。もう生物数も50億を突破してるよ」

「もしかして！ クリア出来るかもなあ」

兄弟は興奮して騒いだ。画面の生物数も60億を突破している。その時であった。画面がまた点滅しだした。

今度は黄色でなく赤色である。

兄弟に嫌な予感が走る。

画面上では、せっかく増えた生物がバタバタと倒れていく。生物数もどんどん数を減らしていった、僅か数分で半分以下にまでなっていた。兄弟は何事があったと表示を見る。そこには“パンデミック”と初めて見る文字が真っ赤な色をして点滅していた。

どうやら、知能を限界まであげた生物でも、この災いは対応できないようであった。

兄は諦めた顔をして、弟に呟いた。

「リセットするか」

弟は兄に即答する

「あいよ、あんちゃん」

弟は、ゲーム機のリセットボタンを押した。

なるほどに、このゲームはバランスが絶妙である……

了。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8195f/>

プラネットゲーム

2010年10月8日15時31分発行